

福島県病院協会会報

(No.115)

2022.6



シリーズ④⑤病院の絵画

「ハナミズキ」

作者 松崎妙子氏

2022年 画用紙、鉛筆、プラスチック色鉛筆 270mm × 380mm

あさかホスピタル 所蔵

— も く じ —

巻頭言	「老外科医とコロナ」 一般社団法人福島県病院協会 常任理事 緑川靖彦 ……	1
講座紹介	「麻醉科学講座紹介」 福島県立医科大学医学部 麻醉科学講座 主任教授 井上聡己 ……	3
寄稿	「『キビタン健康ネット』の現状と今後について」 一般社団法人福島県医療福祉情報ネットワーク協議会 理事長（福島県医師会会長）佐藤武寿 ……	6
寄稿	「福島医大保健科学部開設から1年」 福島県立医科大学保健科学部 矢吹省司 ……	10
渡辺さんの法律相談室	…………… 弁護士 渡辺健寿 ……	12
お知らせ I	令和3年度会務報告（令和3年10月～令和4年3月）……………	15
お知らせ II	福島県からのお知らせ（令和3年10月～令和4年3月）……………	26
広報委員会より	作品募集のお願い……………	41
編集後記	……………	42

巻頭言

老外科医とコロナ

一般社団法人福島県病院協会

常任理事 緑川 靖彦



老外科医には目覚まし時計はいらない。明るくなったら起きる。冬は暗くても起きる。7時前に自宅を出、年中休みなしに勤労に励んでいる。

2019年暮れに中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、パンデミックとなり、国内にとどまらず世界全体に、医療はもとより政治、経済、文化、スポーツ、あらゆる分野に甚大な影響を与えています。しかもこのような長期間に渡る異常事態になるとは、だれもが予想すらできなかったと思います。

東日本大震災から10年経過しましたが、その間、毎年のように、数十年に一度といわれる大災害が各地で報告されました。自然災害に対しては、緊急警報、避難指示、護岸工事、防潮堤など、それなりに対応がなされてきていると思います。一方、今回のような新興感染症のパンデミックに対してはどうだったでしょうか。まさに“無防備”であった、という評価がぴったりと思われれます。病床の逼迫はもちろんのこと、医療崩壊、在宅療養者の死亡、マスク・防護衣・消毒用アルコール不足、さらには感染者への批判、偏見を含む人心の分断といった、人間性の劣化をも指摘できます。医療従事者にも厳しい視線、偏見が投げかけられたこともありました。しかも当院を含め日本の病院の構造や設備が、新興感染に対して全く対応できていないということが露呈しました。わが国では、戦後、有事について真摯に議論することがあえて回避されてきたのではないのでしょうか。十分な時間と資源があれば、必要な人々にできるだけのことをするのが当たり前ですが、それができないのが「有事」という状態です。何かを取り上げるとともに、何かを切り捨てるという、ある意味で「非情な」決断をせざるを得ません。今回は、まさにコロナウイルスとの戦争であるといっても過言ではないでしょう。

大災害も毎年のように発災し、「十年ひと昔」と回顧することすら許されない、常時臨戦態勢の緊張感のもとでの生活を強いられています。

今回、私のような60過ぎの老外科医もコロナ対応として、ワクチン集団接種、個別接種、職域接種、スポット集団接種のほか、軽症者・宿泊施設担当、オンライン診療担当、発熱外来担当、コロナ病棟主治医担当、コロナ関係会議参加を行い、当然のことながら外科医としての通常業務をこなす、三面六臂の活躍？を強いられました。強いられたというのは語弊がありそうです。職員の日曜日勤務を極力させたくない、リーダーシップからの配慮です。マンパワーが少ない当院においては、コロナ対応は感染症医、よしんば内科医など

とはいつてはられません、老外科医が率先垂範を示さねばなりません。“ワークライフバランス”などと言ったことも考えたこともありません。ワクチン接種の浸透にて感染者数の束の間の収束がみられましたが、最近のオミクロン株の出現にて、再増加に転じています。当分の間、老外科医を楽にしてはくれなさそうです。

(呉羽総合病院 理事長・院長)



麻醉科学講座紹介

福島県立医科大学医学部

麻醉科学講座 主任教授 井上 聡 己

令和3年5月1日付けで麻醉科学講座主任教授を拝命いたしました井上聡己（さとき）と申します。昨年4月まで奈良県立医科大学に勤務しておりました福島および東北は初めての土地になります。関西と東北は結びつきが薄く東北の方々と接する機会がなく今回初めてお付き合いさせていただくことになりましたが関西弁を温かく受け入れてくださり良いスタートが切れたかと思っております。

福島医大の麻醉科学講座は1962年（昭和37年）奥秋晟名誉教授が東北大学より麻醉科の基礎造りのために講師として赴任したことに端を発します。その後、1966年（昭和41年）正式に講座として開講しました。1997年（平成9年）より第2代教授として京都大学から村川雅洋教授が着任し、今回私が第3代教授として着任いたしました。福島医大麻醉科は東北の麻醉の黎明期を支えてきたといっても過言ではない存在でした。その守備範囲は広く救急医療から緩和医療まで幅広く活動し、現在では救急科学講座は独立しましたが歴代の教授は麻醉科学講座出身者です。ペインクリニックもかなりの高度なレベルを維持していたと思われます。しかし東北という地方柄で新臨床研修制度のあおりを受け、さらに東日本大震災の影響を受けた感じはします。しかし、現在でもかつてと同じ守備範囲で臨床活動を展開しております。研究面では1980年代にECMOの研究を行っており、特に新生児横隔膜ヘルニアへの応用が研究されていました。今ではECMOという言葉は一般的になりましたが30-40年前に研究をしていたことは驚きに値します。現在では麻醉の免疫に対する影響や麻醉や痛みの作用機序などが講座のテーマになっています。

現在、地域医療に関しては県内主要病院に麻醉科医を派遣しております。広大な福島県をカバーしなければならないのですが、会津、中通り、浜通りとそれぞれが奈良県一県分の医療圏ぐらいにあたるのでまだまだマンパワーが足りない状態です。しかしながら、先達たちの努力でそれぞれの地域の主幹病院が大学レベルの活躍をしているのが感じられ頭が下がる思いです。そのためか麻醉科後期研修プログラム希望者は大学の初期研修からではなくほとんどがこういった県内主幹病院から輩出されています。各病院とも忙しい中魅力ある麻醉科の活動をされているのが実証されていると思います。本当にありがたいことです。とはいっても福島県の麻醉症例をすべてカバーできていないのは事実です。今後は「福島の麻醉は福島医大でカバーします」と言えるよう精進していきたいと思っております。

働き方改革の問題も身近に迫っています。手術件数を確保しつつ、いかに麻酔科医の過重労働を減らすかが問題です。ここはある程度麻酔業務をタスクシフト、タスクシェアするしかないかと思っています。複雑な手術が増え麻酔業務は複雑化していますが、一方で麻酔管理が自動化され安全性が高まっており一部の症例では必ずしも麻酔科医が主体になって管理しなくても良い症例もあると思います。こういった症例をうまく多職種によって管理し指揮を執っていくのが今後の麻酔科医の姿ではないかと思っています。さらに、働き方改革に対応する手段としてはシフト勤務が考えられます。手術は日勤帯に終わるとは限りません。また、午後から始まる手術もあります。そのため手術件数を維持または増加させるには手術室運営時間を縦に伸ばすしかありません。麻酔業務は全科に対して毎日なので、これらを通常勤務でカバーするには超過勤務せざるを得ない状況です。しかし、麻酔科医が増え、他職種とのタスクシェアおよびタスクシフトが進めば、何割かのスタッフは午後にはずらしたシフト勤務が可能になります。このシフト勤務は超過勤務を減らしつつ手術件数増加も図れる手段ではないかと考えております。まだまだ模索中ですがこの分野の麻酔科医の在り方を確立したいと皆で検討している最中です。

また、タスクシフト、タスクシェアで得られた余剰人員を手術室外の分野に広げていくことも我々の仕事と認識しております。特に集中治療、ペインクリニック、緩和医療に関して福島医大は歴史がありつつも今は昔状態です。この分野も非常に魅力のある分野で伸ばしていきたいと思っています。まだまだ、解決しなくてはならない問題が山積していますが、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

話は変わり、麻酔とは何でしょう？ 今は当たり前のようになっていますがつい150年ほど前までは麻酔がなかったのです。麻酔法が開発されたときに麻酔 (Anesthesia) という言葉が出来ました。日本でもはじめ麻睡 (ますい) という言葉で紹介されましたが、単に眠っているのではないので麻酔という名称に変えられました。さて、本題に戻りますが、麻酔法開発以前の外科手術はどうだったでしょう。当然無麻酔ですから痛みを伴います。そのため時間をかけられません。つまり、四肢の切断術、抜歯、切開排膿ぐらいしかできませんでした。外科医は患者さんを押さえつけることが必要なため屈強な大男しかありませんでした。如何に手足を早く切断できるかが外科医の腕の見せ所でした。切断した後は止血のために焼きごてで傷口を焼くということがなされていたようです。患者さんは痛みで気を失うのは当然で中には命を落とすものもありました。それが19世紀の中ごろにエーテルを使って意識を失わせる (鎮静) と患者さんが痛がらなく (鎮痛)、動かない (不動化) のでちょっと複雑な手術ができることが世の中に紹介されました。これが麻酔の始まりです。瞬く間に世界に広がり、麻酔のもとにどんどん複雑な手術ができるようになりました。つまり麻酔は外科学の進歩に大きく貢献した、いや麻酔なくしては外科学の発展はなかったと言えます。すごい面白い話ですが、麻酔には闇の部分もあります。麻酔の黎明期に外科手術はうまく行ったのに患者さんが死亡するということが多発していきました。麻酔事故です。麻酔の発明から100年たった1950年ごろでも100人に1人ぐらいは死亡していました。普通こんなに危ないものなら捨て去られるのに人類は麻酔事故を克服しようと努力し

ました。なぜなら麻酔なしの時代の外科死亡率は80%を超えていたからです。もう麻酔のない時代に逆戻りはできませんでした。麻酔医療事故に関する原因究明、その対策から医療安全が発達し、また麻酔科学会の尽力により麻酔による死亡率は10万例に1例程度まで減少させるに至りました。現在では医療安全に留意しつつ、患者さんの満足度向上に我々の努力は向けられています。また、さらに外科学の発展に寄与できるよう、様々な外科手技のニーズに合わせて我々の麻酔スタイルも変化させています。今後とも福島県立医科大学麻酔科学講座をよろしくお願いいたします。



「キビタン健康ネット」の現状と今後について

一般社団法人福島県医療福祉情報ネットワーク協議会
理事長（福島県医師会会長） 佐藤 武 寿

1. はじめに

病院協会の会員の皆様、協会の会報をお借りして「キビタン健康ネット」を紹介させていただきます。

当協議会に一般社団法人福島県病院協会に構成団体に参加いただき、佐藤病院協会会長に協議会の理事に就任いただいております。

「キビタン健康ネット」は平成27年10月より県中地区から運用を開始し、令和3年に「いわきネットワーク」との接続がなされ全県のネットワークになっております。

「キビタン健康ネット」は、福島県内の医療機関・介護施設等を安全な通信回線で結ぶことにより、各施設を受診した際の患者基本情報、検体検査結果、放射線画像、薬剤情報などを、その後の診療に活かすことができる地域医療連携ネットワークシステムです。

病院、診療所においては、電子カルテが普及してきましたが、院内だけではなく、地域連携、臨床研究、災害時利用など、「キビタン健康ネット」を介し、医療機関同士で診療情報等の相互参照が可能となるため、かかりつけ診療所・薬局、介護老人保健施設などから、中核病院の診療情報等を確認でき、各医療機関はもちろんのこと、患者さんが「キビタン健康ネット」を通じてメリットを感じられる地域医療連携ネットワークシステムとして運用しております。

特に、「キビタン健康ネット」の提供開始から7年が経過し、システムの改修整備が図られ、今後の安定的な運用ができる地域連携ネットワークを目指し取り組んで参ります。

また、「キビタン健康ネット」は県の新たな長期総合計画や地域医療構想でも地域の医療機関の役割分担や介護分野との連携の推進などから、「キビタン健康ネット」へのアクセス件数や患者の同意件数の指標をもって位置づけられました。今後とも県の支援も受けながら新型コロナウイルス感染症対応をはじめ「キビタン健康ネット」が県民に安全で効率的な医療を提供するためのツールとしてより一層積極的に活用されるよう取り組んで参ります。

2. 「キビタン健康ネット」の現状

現在の参加施設は739施設であり、現在も参加施設を募集しております。

また、情報提供の運用を開始いただいている病院は53施設となりました。

[参加施設数]

2022年2月1日現在

	病 院	診療所・ クリニック	介護老人 保健施設	薬 局	歯 科 診 療 所	行 政 ・ 医 師 会 等	合 計
県 北	18	66	13	118	5	4	224
県 中	17	64	1	120	4	4	210
県 南	4	11	2	24	2	1	44
会 津	8	21	8	47	1	2	87
南会津	1	5	1	4	0	1	12
相 双	9	31	1	19	1	1	62
いわき	11	20	8	60	0	1	100
合 計	68	218	34	392	13	14	739

ご利用いただいているシステムは次表のとおりです。

システムの名称		特 徴
調剤情報システム (調剤情報参照)		薬局の調剤履歴を共有し、患者の服薬指導の強化、リスクを軽減するシステム
地域連携パスシステム		病院とかかりつけ医の双方が連携し、治療計画に沿って継続的に診療を行うため、ネットワーク上で患者のパス情報を共有するためのシステム
郡市医師会 施設がん 検診読影システム		施設がん検診における胸部X線・胃カメラ画像を登録し、一次・二次読影が可能となるシステム（地区医師会単位）
画像共有システム		DICOM 画像を共有するシステム。全医療機関において双方向による画像共有が可能。救急時の運用も可能。
WEB 会議システム (遠隔カンファレンス システム)	TLS1.2	医師や医療関係者、行政、介護事業所での会議（カンファレンス）環境を提供（地域包括ケア会議、遠隔カンファレンス等）するシステム
キビタンケアネット サービス	TSL1.2	多職種において情報共有が可能なサービス。行政や介護事業所等、患者家族等との連携が可能。

現在まで、参加いただいた県民の方は32,206名で、同意書件数は74,540件（令和4年2月1日現在）となりました。

3. 今後の展開について

参加施設が施設や職種の垣根を越えて互いに連携しながら、「キビタン健康ネット」を県民に安全で効率的な医療を提供するためのツールとして、積極的に活用できるようにすることを目標として活動を行います。そのため、「キビタン健康ネット」へ参加する施設を継続して募集し、参加施設数の拡大を目指します。

協議会事務局では、病院、診療所、薬局、介護老人保健施設などの参加施設への運用説

明、操作説明を積極的に行っております。

また、利用拡大へ向けた県民への周知活動を行うため、「キビタン健康ネット」の意義を知っていただき、一人でも多くの県民に「キビタン健康ネット」への参加、及び「キビタン健康パスポート」の取得をしていただけるよう、医療機関、薬局などの窓口においてパスポート取得の勧奨に努めるとともに、県内4地域において病院のご協力をいただきながら、「キビタン健康ネット」窓口を開設して活動して参ります。

なお、福島県では「キビタン健康ネット」への参加についてのテレビ・ラジオコマーシャルを県の広報の枠で実施いただいております。

新型コロナウイルス感染症対応については、これまで福島県や医科大学の要請に応じて、患者受け入れ病院や県の保健所・宿泊療養施設での「入院状況」の共有をはじめ診療情報につきましては県立医科大学附属病院及び3次医療機関との連携を図ることとし、重症化による患者の転院など活用されてきましたが、より活用されるよう要望等をお聞きしながらシステムの整備運用に努めて参ります。

令和3年度に県の補助を受けて整備した問診テンプレートシステムは県民がコロナによる発熱等の場合「キビタン健康ネット」を介して患者の状況を入力することにより、保健所や医療機関で閲覧し次の対応へつなげるためのシステムであり、多くの県民に利活用していただくように努めて参ります。

また、症状悪化等による緊急閲覧希望の場合など夜間や土日祝日に閲覧希望の場合の救急機能運用を開始して、より緊急救急対応可能となるよう努めて参ります。

「キビタン健康ネット」のシステムの中で、特に病院の先生方に活用いただきたいのは「地域連携パスシステム」と「WEB会議システム」です。

地域連携パスではこれまで、用紙やデバイスを用いて地域連携パスの情報を共有してきたものと思いますが、キビタン健康ネット上で共有可能であり、脳卒中や糖尿病など疾患ごとの特性に対応し、地域でスムーズな医療連携を行うことができます。

また、WEB会議システムは高いセキュリティ回線でのWEB会議が可能です。専用機器が必要でなく、キビタン健康ネットの参加施設以外でも利用可能です。定例的な会議だけでなく、突発的に発生する緊急会議にも対応でき、紹介・逆紹介の場合など有効に活用いただけるものと考えています。

「キビタン健康ネット」を多くの医療機関等が利用して診療に反映し医療を行うことは、地域医療の質の向上につながります。また、地域完結型医療、地域包括ケアを実現していくためには、関係者・関連機関間の十分な情報連携が不可欠です。「キビタン健康ネット」はその情報連携に役に立つシステムです。

今後、「キビタン健康ネット」が利用しやすく使われるネットワークとなり、また地域が抱える医療課題等について「キビタン健康ネット」を活用することで解決できる方策等

も検討して参ります。さらに「キビタン健康ネット」が福島県の広域システムとして認められる仕組みになることにより、そのネットワーク基盤を活かした新たな地域包括的な医療福祉のサービスの検討も推進して参ります。

キビタン健康ネットに関するお問い合わせ先

〒960-8036 福島市新町4番22号（福島県医師会館1F）

電話 024-525-8818

E-mail : info@kibitan-k.net



福島医大保健科学部開設から 1 年

福島県立医科大学保健科学部

矢 吹 省 司

令和3年（2021年）4月に福島県立医科大学の3つ目の学部となる保健科学部が開設されました。数年前に開設準備の状況を本誌で報告させていただきましたが、スタート後1年が経過しましたので現状につき報告させていただきます。

令和3年4月7日に入学式をとうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）にて3学部合同で行いました。保健科学部は143人が入学しました（本来は145人が定員なのですが入学辞退者がいたためこの人数になりました）。オリエンテーションの後に授業が始まりました。2月にあった地震で建物の一部に損傷がありましたが、授業には問題ありませんでした。光が丘キャンパス（医学部と看護学部）ではZoomでの遠隔授業でしたが、福島駅前キャンパス（保健科学部）（写真1）は附属病院と隣接しないことなどから対面形式で行うことができました（途中、福島県非常事態宣言やまん延防止等重点措置が出されたときは遠隔授業になりましたが）。



写真1 福島駅前キャンパスの外観
（福島県立医科大学保健科学部のホームページから <https://fmu-hs.jp>）

学生は緊張しながらも真面目に授業を受けています。学外の講師が授業の後に言っていたことがあります。「ここでの講義は、学生が一生懸命聞いてくれるので楽しいです。」と。何人もの学外講師から聞いたので間違いないと思っています。

保健科学部の講義には、「福島県を知る」や「福島県の医療環境」という科目があります。「福島県を知る」では、福島県の風土や文化を知ってもらうため、福島県立博物館と福島県立美術館の見学を入れています。さらに福島県の食文化を知ってもらうため、福島県の日本酒についての講義もあります。講師は勿論、新酒鑑評会8連覇の立役者である鈴木賢二先生です。また、「福島県の医療環境」では、東日本大震災と福島第一原発事故による影響を知ってもらうため、東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）、東京電力廃炉資料館（富岡町）、または福島県環境創造センター（三春町）の見学を行いました。大震災後10年以上が経過してもなお立ち入りが禁止され、荒れ果てた地域があることを自分の目で見てもらいました。何が起きて、どう復興してきて、今はどんな問題があるのか、をグループディスカッションし、学生が何を感じ、今後どのように貢献していきたいかを発表してもらいました。

私が1年生の科目責任者をしている科目は、「チーム医療1」、「修学基礎セミナー」、「福島県を知る」、「福島県の医療環境」、そして「リハビリテーション概論」でありまして、定期試験では全て筆記試験を含めました。一期生のため過去問がなく、聞く先輩もなく、どんな試験なのか不安だったためか（学生生活アンケートでもそういう回答が多かった）、私の部屋まで来て「どんな問題を出すのか？」と何人もの学生が質問に来ました。学生生活では、医学部や看護学部の学生と一緒にクラブ活動を行ったりして交流してくれることを願っていました。しかし、コロナ禍のためになかなか実現しなかったのは残念でした（短期間ですが、途中からクラブ活動を一緒にできるようになりました）。

コロナに振り回されましたが、1年間が経過しました。学生なりに、勉学、クラブ活動、バイトなど一生懸命だったと思います。残念ながら数人は原級留置（いわゆる留年）になってしまいました。若いのでしっかり盛り返してくれることを願っています。令和4年4月には二期生が入ってきます。学生の人数が倍になり、福島駅前キャンパスも賑やかになると思います。3年後には一期生が卒業します。県内に多くの学生が就職して活躍してくれるはずです。先生方と一緒に福島県の医療を盛り上げて行ってくれると信じています。先生方には実習・就職などでお世話になる機会があると思います。是非、立派な専門医療技術者となるよう優しい目で御指導いただければ幸いです。今後ともよろしく願いいたします。



弁 護 士 渡 辺 健 寿
(渡辺健寿法律事務所)
住 所 福島市宮下町7番16号
T E L (024) 533-6145
F A X (024) 533-6146

生体情報モニタのアラームに関わる医療事故

【質 問】

人工呼吸器や心拍数モニタなど医療機器のアラームに関わる医療事故で裁判になった事例としてどのようなものがあるでしょうか。

【回 答】

1 医療機器と医療事故

最近の医療機器は故障しにくく安全面や操作性を考慮した設計がされているところから、医療機器が関連する医療事故としては機器そのものの設計・仕様上の欠陥に起因するものよりも医療機器の誤操作、誤設定や管理、監視上の不備など人為的な過失によるものが多く見られます。

医療機器のアラームに関連する医療事故としては、アラームの設定ミスやなにかの都合でアラームのスイッチを切った後に再度スイッチを入れることを失念したなどの理由でアラームが鳴らなかったケース、アラームを適切に設定していたものの監視体制が不十分なためアラームが鳴ったことに気付かなかったケース、アラームに気付いても他の患者の対応に従事していて適切な対応ができなかったケースなどさまざまなものが想定されます。

2 裁判例の紹介

(1) 東京地裁令和2年6月4日判決

くも膜下出血のためB病院に入院していた患者Aは、入院中に呼吸が停止し顔面蒼白の状態で見られ、心肺蘇生措置の結果、心拍や自発呼吸は再開したものの低酸素脳症による重度意識障害等が後遺し約4年半後に死亡しましたが、亡Aの相続人らがB病院の医師、看護師らには生体情報アラーム設定を誤り、これを見落としたなどの過失があるとして、B病院に対し不法行為または債務不履行に基づき損害賠償を求めたという事案です。

裁判所はB病院の注意義務として、亡Aの容体の急激な悪化がみられたときには、それを察知できるよう監視すべきであったのであり、バイタルサインの把握については看護師による見回りや目視による確認には限界があるので医療機器を利用しなければならず、医

療機器の設定がきちんと維持されているか継続的に確認すべきであるとし、そして、アラームが鳴り続けることによるAに対する刺激を避けるためアラームをオフにした後、転床の際に一度は手でアラームをオンの設定にしたものの医療機器の機能により転床前の設定が自動的に引き継がれ再びアラームがオフの設定になったことに気付かず、亡Aの容体が急変するまでの約5日間にわたってアラームがオフになっていることを見過ごした点でB病院の看護師らに注意義務違反が認められるとし、およそ3,000万円の範囲で亡Aの相続人らの賠償請求を認容しました。

(2) 東京地裁平成17年11月22日判決

もともと慢性腎不全であったCは、左上下肢の筋力低下及び構語障害を発症し搬送された先のD病院で右視床出血による左不全片麻痺の診断を受け緊急入院し、入院中夜間にCの監視モニタのアラーム音が鳴り、看護師がCの病室に赴いたところCに自発呼吸がなかったため直ちに心臓マッサージ、駆け付けた医師による気管内挿管、ボスミンの心腔内注射などの措置を施したもののCの心拍は回復せず呼吸不全により死亡しましたが、Cの遺族らがD病院の医師、看護師らにCの呼吸不全に対する救命措置を怠った過失があるとして、D病院に対し不法行為または債務不履行に基づき損害賠償を求めたという事案です。

D病院は、3名以上の夜間勤務の看護師を置いており法令の基準は満たしていること、Cの呼吸に異常があるときはアラームが鳴るように設定して医用テレメータにより監視していたことなどを理由にCの呼吸管理に関し過失はなかったと主張しました。

裁判所は、Cは度々無呼吸の状態になり、死亡前日には酸素飽和度が低下し75～80%の状態になることがあったことから、病院側はCの呼吸状態が再び悪化した場合に備えCの監視体制を強化し、酸素飽和度の低下があった場合には直ちに気管内挿管等の措置を採ることができるような体制を施すべき注意義務があったとし、夜間3名の看護師を置いてこれが法令の基準に適合するものであったとしても、法令の基準はいわば最低基準を示すものであり、これをみだしていなければ過失を肯認する事情に働くものの、法令の基準を満たしているからといって当然に過失を否定することにはならないとしました。

そして、配置されていた3名の看護師がいずれもナースステーションを不在にすることにより、Cの呼吸管理のための装置のアラームが鳴ったことに気付かず30分間もCを放置する結果を招いたのであるから、Cに対する監視上の注意義務違反があったとして、およそ2,200万円の範囲で亡Cの遺族らの賠償請求を認容しました。

(3) 神戸地裁平成23年9月27日判決

知的障害を負っていたEは、肺炎治療のためG病院に入院中、呼吸状態悪化のため人工呼吸器が装着され、1週間ほどで気管切開、カニューレが装着され、それから1月ほど経った日の午前4時45分頃、看護師FがEの気管内を吸引したところ、中等量の痰が引け、呼吸状態は平静でした。その後Fは別の患者に対応し午前5時21分14秒ころにナースステーションに戻り、午前5時21分39秒頃ナースステーションを出ましたが、その際Eの心拍数が70以下でアラームが鳴っていました。Fとは別の看護師が午前5時37分ころEの病室を訪れたところ、Eのカニューレが抜けかけ空気の出入りは感じられず、Eは瞳孔が散

大し、呼吸停止の状態、心拍数は20前後でした。すぐさま心臓マッサージとアンビューバッグによる人工呼吸が行われEは蘇生しましたが、低酸素脳症から植物状態になり翌年死亡しましたが、Eの両親はG病院の看護師らに心拍数モニタのアラームに対応すべき注意義務を怠った過失があるとして、G病院に対し損害賠償を求めたという事案です。

G病院は、本件事故がおこった早朝の時間帯は起床に備えて投薬準備、バイタル計測、おむつ交換と多忙を極め、看護師がナースステーション内のモニタばかり見ていることはできずモニタの注視義務はない、アラームは患者の動きによって誤作動を起こすことがあり、異常数値をしめしてもすぐに正常値にもどることもあり、アラームが鳴っていても数値自体は異常値ではないことも少なくないとして、アラームが鳴ったら直ちに訪室するというものではなく、アラームが鳴っていたはずなのに気づくのが遅れたから即過失ありとはならない、Fがナースステーションに戻った30秒前後の短時間でアラーム音やモニタの異常に注意を払う余裕はなく、アラームに気付かなかったとしても過失ということはできない、深夜帯にナースステーションに看護師が不在となる時間があることは普通のことであり、不在とならないように看護師がナースステーションに戻る義務や戻った際にモニタを確認すべき義務はないなどの抗弁を主張しました。

裁判所は、ナースステーションに在室する看護師は、アラームが鳴ったときは直ちにモニタを確認して単なる一時的な異常と判断されるのであれば格別、そうでない場合には訪室して異常の原因を除去する、医師に異常を伝えるなどの措置をとるべき注意義務があるとし、Fはナースステーションに在室していた時Eの心拍数アラームが鳴っていたにもかかわらず何らの対応も行っていない点で注意義務違反が認められるとしました。

また、看護師は同時に複数の対応すべき業務を抱えたときは、適宜優先すべき業務から対応すべきものであり、アラームに対応しないことや対応が遅滞することは人命にかかわる場合があるので、アラーム対応が優先すべき業務であり、アラームに気が付かなかったとすれば、緊急業務に従事していたため気付かなかったとしてもやむを得なかったというべき特段の事情がない限りアラームに気付かなかったこと自体が過失であるとして、およそ1,100万円の範囲でEの両親の賠償請求を認容しました。

3 医療機器のアラームに関わる事故を防止するための対応

セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ等の取扱い時の注意をまとめた医薬品医療機器総合機構 PMDA 医療安全情報 (No.29 2020年4月改訂版) によれば、医療機器のアラームに関わる事故防止のための対応として、アラームが鳴動した際の基本的な対応方針を明確にすること、患者ごとにベッドサイドモニタ等の必要性をチームで検討すること、モニタが必要な患者については患者の病態に応じて心拍数の閾値や不整脈などのアラームの設定を適宜変更し頻繁なアラームを減らすこと、適切なアラーム音や音量を検討することなどが挙げられています。

令和3年度会務報告（令和3年10月～令和4年3月）

○会 議 等

10月8日(金) 令和3年度第1回福島県救急医療対策協議会（書面開催）

○議 題

- ・第七次福島県医療計画（原子力災害医療）の中間見直しについて

○出席者 渡部洋一常任理事、篠原一彰、小山 敦、小林辰輔

10月11日(月) 令和3年度福島県原子力災害対策協議会（書面開催）

○議 題

- ・福島県原子力災害医療対策協議会の会長及び副会長の選任について
- ・第七次福島県医療計画（原子力災害医療）の中間見直しについて

○出席者 佐藤勝彦会長

10月11日(月) 令和3年度福島県災害医療対策協議会（書面開催）

○議 題

- ・第七次福島県医療計画（原子力災害医療）の中間見直しについて

○出席者 渡部洋一常任理事

10月14日(木) 令和3年度健康ふくしま21推進県民表彰式における公衆衛生事業功労者の表彰

○会 場 福島市 キョウワグループ・テルサホール（福島テルサ）1階
「FT ホール」

○時 間 13：15～

○出席者 佐藤勝彦会長

10月14日(木) 第23回新型コロナウイルス感染症に係る福島県医療調整本部会議

○会 場 福島市 福島県庁北庁舎2階「災害対策本部会議室」

○時 間 10：30～

○出席者 佐藤勝彦会長、渋谷良一事務局長

10月15日(金) 第43回「県民健康調査」検討委員会

○会 場 福島市 ザ・セレクトン福島 西館3階「安達太良」

○時 間 13：30～

○議 題

- ・甲状腺検査について
- ・妊産婦に関する調査について

○出席者 佐藤勝彦会長

10月25日(月) 福島県医療審議会 保健医療計画調整部会

○会 場 福島市 ふくしま中町会館6階「北会議室」

○時 間 15:00～

○議 題

- ・第七次福島県医療計画中間見直しについて
- ・届出による診療所への病床設置について

○出席者 佐藤勝彦会長

11月1日(月) 第73回東電原発事故被災病院協議会 (Webハイブリッド会議)

○会 場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時 間 14:00～

○協議事項 (座長 前原和平代表)

- ・各病院からの現況報告について

○来 賓

- ・復興庁福島復興局 企画班 参事官 吉本雅世様
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
室長補佐 生駒隆康様(Web)
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
医師確保対策専門官 弘中貴之様(Web)
- ・経済産業省資源エネルギー庁
原子力損害対応室 企画官 樫福錠治様
- ・経済産業省資源エネルギー庁
原子力損害対応室 室長補佐 畑下 潔様(Web)
- ・福島県企画調整部避難地域復興局 原子力災害対策課
主幹兼副課長 三浦 敏様(Web)
- ・福島県保健福祉部地域医療課
副課長 米良 淳一様
- ・福島県保健福祉部地域医療課
主事 藤田 靖恭様
- ・一般社団法人福島県医師会
事務局次長 八巻 秀一様

○出席者 来賓 5名 (Web) 4名

会員 6病院7名 (Web) 2病院2名

事務局 2名

11月15日(月) 福島県医療審議会 保健医療計画調整部会

○開催方法 Web開催 (Zoom)

○時 間 14:00～

○議 題

- ・第七次福島県医療計画中間見直し(素案)について

○出席者 佐藤勝彦会長

- 11月18日(木) 医療施設用ロボット等導入促進事業（2020年度）検証会議
 ○開催方法 Web開催（Zoom）
 ○時 間 14：00～
 ○出席者 渋谷良一事務局長
- 11月19日(金) ふくしま医療機器産業推進機構 2021年度第1回意見交換会
 ○場 所 郡山市 ふくしま医療機器開発支援センター
 ○時 間 14：00～
 ○出席者 三浦純一副会長
- 11月22日(月) 第24回新型コロナウイルス感染症に係る福島県医療調整本部会議
 ○会 場 福島市 福島県庁北庁舎2階「災害対策本部会議室」
 ○時 間 10：30～
 ○出席者 佐藤勝彦会長、渋谷良一事務局長
- 11月26日(金) 福島県医療審議会
 ○会 場 福島市 杉妻会館4階「牡丹」
 ○時 間 13：30～
 ○議 題
 ・第七次福島県医療計画中間見直し（素案）について
 ○出席者 佐藤勝彦会長
- 12月22日(水) 第25回新型コロナウイルス感染症に係る福島県医療調整本部会議
 ○会 場 福島市 福島県庁北庁舎2階「災害対策本部会議室」
 ○時 間 13：30～
 ○出席者 佐藤勝彦会長、渋谷良一事務局長
- 1月11日(火) 第74回東電原発事故被災病院協議会（Webハイブリッド会議）
 ○会 場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」
 ○時 間 14：00～
 ○協議事項（座長 前原和平代表）
 ・各病院からの現況報告について
 ○来 賓
 ・衆議院議員 金子恵美様
 ・参議院議員 森まさ子様(Web)
 ・復興庁福島復興局
 企画班 参事官 吉本雅世様
 ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
 室長補佐 生駒隆康様(Web)
 ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
 医師確保対策専門官 弘中貴之様(Web)

- 経済産業省資源エネルギー庁
原子力損害対応室 企画官 檜 福 錠 治 様
- 経済産業省資源エネルギー庁
原子力損害対応室 室長補佐 畑 下 潔 様(Web)
- 福島県企画調整部避難地域復興局 原子力災害対策課
副主査 伊 藤 悠 様(Web)
- 福島県保健福祉部地域医療課
課長 玉 川 啓 様
- 福島県保健福祉部地域医療課
主任主査 武 田 新 一 様
- 一般社団法人福島県医師会
事務局次長 八 卷 秀 一 様

○出席者 来賓 6名 (Web) 6名
 会員 5病院7名 (Web) 5病院7名
 事務局 2名

1月17日(月) 福島県医療審議会保健医療計画調査部会

○開催方法 Web開催 (Zoom)

○時 間 15:00～

○議 題

- 第七次福島県医療計画中間見直し(素案)について

○出席者 佐藤勝彦会長

1月18日(火) 第26回新型コロナウイルス感染症に係る福島県医療調整本部会議

○会 場 福島市 福島県庁北庁舎2階「災害対策本部会議室」

○時 間 13:00～

○出席者 佐藤勝彦会長、渋谷良一事務局長

1月21日(金) 令和3年度福島県高齢者権利擁護推進会議

○会 場 福島市 杉妻会館3階「百合」

○時 間 15:00～

○議 題

- 県内の高齢者虐待の状況について
- 成年後見制度利用の促進にかかる体制整備状況等について
- 意見交換

○出席者 佐久間 啓副会長 (Web)

1月27日(木) 福島県医療審議会

○開催方法 Web開催 (Zoom)

○時 間 15:00～

- 議 題
 - ・第七次福島県医療計画中間見直し（素案）について
- 出席者 佐藤勝彦会長、井上 仁常任理事
- 1月28日(金) 令和3年度第3回福島県地域医療対策協議会（書面開催）
- 議 題
 - ・令和4年度自治医科大学卒業医師・修学資金被貸与医師の配置案について
- 決議者 佐藤勝彦会長、新谷史明副会長
- 1月31日(月) 福島県ドクターヘリ運航調整委員会
- 開催方法 Web開催（Zoom）
- 時 間 13：30～
- 議 題
 - ・福島県ドクターヘリ運航要領の改訂について
 - ・ドクターヘリ運航状況について
 - ・令和元年度及び令和2年度ドクターヘリ症例検討会の開催状況について
- 出席者 代理 渋谷良一事務局長
- 2月8日(火) 第27回新型コロナウイルス感染症に係る福島県医療調整本部会議
- 開催方法 Web開催（Zoom）
- 時 間 13：30～
- 出席者 佐藤勝彦会長、渋谷良一事務局長
- 2月10日(木) 福島県医療審議会
- 開催方法 Web開催（Zoom）
- 時 間 13：30～
- 議 題
 - ・（全体会）会長の選任、所属部会の決定
 - ・（保健医療計画調査部会）部会長の選任
 - ・（医療法人部会）部会長の選任、医療法人の設立・解散について
- 出席者 佐藤勝彦会長、井上 仁常任理事
- 2月11日(金) 福島県肝炎対策協議会（書面開催）
- 議 題
 - ・肝炎対策取組状況について
- 出席者 三浦純一副会長
- 2月14日(月) 令和3年度福島県救急医療対策協議会
- 開催方法 Web開催（Zoom）
- 時 間 14：00～
- 議 題
 - ・救急救命士認定要領の改正について

- 救急搬送・受入状況等について
- 福島県夜間救急電話相談事業について

○出席者 渡部洋一常任理事

篠原一彰（太田西ノ内病院救命救急センター所長）

小林辰輔（会津中央病院救命救急センター長）

小山 敦（いわき市医療センター救命救急センター長）

2月14日(月) 令和3年度第3回役員会

○開催方法 Web 開催（webex）

○時 間 16：00～

○議 題

- 令和3年度会務報告事項
- 「令和4年度福島県予算編成及び医療政策方針に対する要望事項」（報告）について
- 各委員会の取組状況について
- 令和4年度定期総会について
- 令和4年度第1回役員会の開催について

○出席者 会 長：佐藤勝彦

副 会 長：佐久間 啓・新谷史明・三浦純一

常任理事：会田征彦・井上 仁・金澤正晴・野水 整・
武市和之・本田雅人・緑川靖彦・渡部洋一

理 事：及川友好・菅野智行・近藤祐一郎・佐藤雅彦・
高萩周作・武藤 淳

監 事：原口秀司

事 務 局：2名

2月16日(水) 医療施設用ロボット等導入促進事業（2021年度）検証会議

○開催方法 Web 開催（Zoom）

○時 間 14：00～

○出席者 渋谷良一事務局長

2月16日(水) 第1回福島県立医科大学附属病院長候補者選考会議

○会 場 福島市 福島県立医科大学附属病院

○時 間 13：30～

○出席者 佐藤勝彦会長

2月17日(木) 「ふくしま SDGs 推進フォーラム」

○会 場 福島市 ウェディングエルティ1階「スクエア」

○時 間 13：00～

○出席者 佐藤勝彦会長

2月21日(月) 令和3年度福島県献血推進協議会（書面開催）

○議 題

- 令和3年度福島県献血推進計画の進捗状況について
- 令和3年度献血・供給及び原料血漿確保状況について
- 令和4年度献血・供給及び原料血漿確保見込みについて
- 令和4年度福島県献血推進計画（案）について
- 令和4年度福島県献血推進計画新旧対照表
- 令和4年度市町村献血目標（案）について

○決議者 佐藤勝彦会長

2月24日(木) 令和3年度経営管理研修会

○会 場 福島市 福島県医師会館3階「小会議室」

(Webによるオンライン開催)

○時 間 16:00～

○講 演

- 演題 「検証 コロナ禍の病院経営」
- 講師 千葉大学医学部附属病院

副病院長・特任教授 井上 貴 裕 先生

- 座長 福島県病院協会 渡部洋一常任理事

○出席者 佐藤勝彦会長他44名

3月1日(火) 令和3年度第1回福島県後発医薬品安心使用促進協議会（書面開催）

○議 題

- 令和3年度福島県後発医薬品安心使用促進事業実績について
- 情報提供

○決議者 井上 仁常任理事

3月2日(水) 令和3年度福島県医療福祉情報ネットワーク協議会（Web併用）

○会 場 郡山市 郡山ビューホテルアネックス4階「花勝見」

○時 間 15:00～

○議 題

- 令和3年度事業報告について
- 令和4年度事業計画について

○出席者 佐藤勝彦会長（Web参加）

3月3日(木) 令和3年度第1回福島県自殺対策推進協議会アルコール健康障害対策推進協議会（書面開催）

○決議者 佐久間 啓副会長

3月8日(火) 第75回東電原発事故被災病院協議会（Webハイブリッド会議）

○会 場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時 間 14:00～

○協議事項（座長 前原和平代表）

- 各病院からの現況報告について

○来 賓

- 復興庁福島復興局

企画班 参事官 吉本雅世様

- 厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
室長補佐 生駒隆康様

- 厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
医師確保対策専門官 弘中貴之様

- 経済産業省資源エネルギー庁

原子力損害対応室 企画官 樫福錠治様

- 経済産業省資源エネルギー庁

原子力損害対応室 室長補佐 畑下 潔様(Web)

- 福島県企画調整部避難地域復興局 原子力災害対策課

副主査 伊藤 悠様(Web)

- 福島県保健福祉部地域医療課

主幹兼副課長 米良 淳一様

- 福島県保健福祉部地域医療課

主任主査 武田 新一様

- 一般社団法人福島県医師会

事務局次長 八巻 秀一様

- 衆議院議員 金子恵美福島事務所

秘書 中川 誠一郎様

- 参議院議員 森まさ子会津事務所

秘書 小池 康之様(Web)

○出席者 来賓 8名 (Web) 4名

会員 5病院8名 (Web) 3病院4名

事務局 2名

3月14日(月) 福島県肝炎対策協議会（書面開催）

○議 題

- 令和3年度肝炎対策事業の実施状況について
- 肝炎対策協議会委員所属機関における取組状況
- 令和4年度肝炎対策事業計画案について
- 福島県肝炎対策基本指針の改正案について

○決議者 三浦純一副会長

- 3月18日(金) 令和3年度第2回福島県原子力災害対策協議会（書面開催）
- 議 題
 - ・福島県原子力災害医療協力機関の新規登録について
 - 決議者 佐藤勝彦会長
- 3月18日(金) 令和3年度第2回災害医療対策協議会（書面開催）
- 議 題
 - ・福島県災害拠点病院の指定について
 - 決議者 渡部洋一常任理事
- 3月23日(水) 2021年度第2回ふくしま医療機器産業推進機構評議員会
- 場 所 郡山市 ふくしま医療機器開発支援センター
 - 時 間 15：15～
 - 議 題
 - ・定款の変更（案）について
 - ・就業規則の改訂（案）について
 - ・2022年度事業計画（案）について
 - ・2022年度収支計画（案）について
 - 出席者 三浦純一副会長（Web 参加）
- 3月23日(水) 令和3年度福島県医療福祉情報ネットワーク協議会第3回理事会
- 会 場 福島市 福島県医師会館3階「中会議室」
 - 時 間 17：00～
 - 議 題
 - ・入会・退会の承認について
 - ・令和3年度補正予算案について
 - ・令和4年度事業計画について
 - ・令和4年度予算案について
 - 出席者 佐藤勝彦会長（Web 参加）
- 3月25日(金) 第28回新型コロナウイルス感染症に係る福島県医療調整本部会議
- 開催方法 Web 開催（Zoom）
 - 時 間 10：30～
 - 出席者 佐藤勝彦会長、渋谷良一事務局長
- 3月28日(月) 令和3年度第4回福島県地域医療対策協議会（書面開催）
- 議 題
 - ・令和4年度地域医療支援教員等の派遣（案）について
 - ・医師確保修学資金制度における「総合診療科加算制度」の創設について
 - ・へき地医療等医師確保修学資金被貸与医師及び自治医科大学操業医師の勤務対象医療機関の改正について
 - ・令和4年度修学資金被貸与医師の勤務配置修正について

- 令和5年度開始臨床研修病院監修以の募集定員について
- 避難地域等医療復興計画（令和4年度版）（素案）について

○決議者 佐藤勝彦会長、新谷史明副会長

3月29日(火) 令和3年度救急医療研修会

○会 場 福島市 福島県医師会館3階「中会議室」

(Webによるオンライン開催)

○時 間 15:00～

○講 演

- 演題 「オミクロンの特性と感染対策」
- 講師 福島県立医科大学医学部
感染制御医学講座 教授 金光敬二先生
- 座長 福島県病院協会 会田征彦常任理事

○出席者 佐藤勝彦会長他262名

○事業共催（名義後援・名義共催等）

*事業名 「日本プライマリ・ケア連合学会 第11回東北ブロック学術集会」

期 日 令和3年10月2日(土)・3日(日)

主 催 第11回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック学術集会

*事業名 「第29回日本精神科救急学会学術総会」

期 日 令和3年10月23日(土)・24日(日)

主 催 一般社団法人日本精神科救急学会

*事業名 「ピンクリボン in 郡山」2021

期 日 令和3年10月24日(日)

主 催 「ピンクリボン in 郡山」実行委員会

*事業名 令和3年度介護対応研修会

期 日 令和4年1月30日(日)

主 催 福島県歯科医師会

*事業名 2022年福島県立医科大学「県民健康調査」国際シンポジウム

期 日 令和4年3月5日(土)

主 催 福島県立医科大学福島駅前キャンパス

*事業名 「福島県医療福祉関連学校養成所進学相談会」

期 日 令和4年3月5日(土)

主 催 福島県医療福祉関連教育施設協議会（福島県より業務委託）

○広告掲載

* 「2022年賀 団体・事業所ごあいさつ」

掲載日 令和4年1月1日

掲載先 福島民報社

* 「年賀 新年の御挨拶」

掲載日 令和4年1月1日

掲載先 福島民友新聞社

福島県からののお知らせ（令和3年10月～令和4年3月）

通知内容が必要であれば、写しをFAX又は郵送いたしますので、事務局までご連絡ください。

なお、件名頭の★印は冊子や厚手の資料ですので、貸出又は閲覧といたします。

新型コロナウイルス感染症におけるレムデシビル製剤の薬価収載に伴う医療機関への配分について（その2）（依頼）	3 健 第 8106 号 令和3年10月1日 保健福祉部長
希少疾病用医薬品の指定について（通知）	3 健 第 8206 号 令和3年10月4日 保健福祉部長
新型コロナウイルス感染症の「感染防止対策の継続支援」について（通知）	3 健 第 8201 号 令和3年10月4日 保健福祉部長
在留外国人が参加するお祭り等における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について（通知）	3 健 第 8211 号 令和3年10月5日 保健福祉部長
新型コロナウイルス感染症による死亡事案の把握の徹底について（通知）	3 健 第 8234 号 令和3年10月6日 保健福祉部長
新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬の医療機関への配分について（質疑応答集の修正）	3 健 第 8391 号 令和3年10月11日 保健福祉部長
令和3年度新型コロナウイルス感染症感染拡大防止継続支援補助金について（通知）	3 健 第 8589 号 令和3年10月13日 保健福祉部長
新型コロナウイルス感染症に係る検査並びにワクチン及び治療薬の治験体制整備のための医療法上の取扱いについて（通知）	3 健 第 8475 号 令和3年10月14日 保健福祉部長
新型コロナウイルス感染症におけるレムデシビル製剤の薬価収載に伴う医療機関への配分について（その3）（依頼）	3 健 第 8771 号 令和3年10月19日 保健福祉部長

令和3年度福島県地域医療介護総合確保基金事業補助金（介護人材確保対策事業）の第2次公募について（通知）	3 生 福 第 3587 号 令和3年10月20日 社 会 福 祉 課 長
「結核医療の基準」の一部改正について（通知）	3 健 第 9030 号 令和3年10月21日 地 域 医 療 課 長
季節性インフルエンザワクチンの供給量について（通知）	3 健 第 9125 号 令和3年10月25日 保 健 福 祉 部 長
「お薬手帳（電子版）の運用上の留意事項について」の一部改正について（通知）	3 健 第 9236 号 令和3年10月27日 保 健 福 祉 部 長
令和3年度病院前医療体制における指導医研修（初級者）に係る受講者の募集について（通知）	3 健 第 9278 号 令和3年10月27日 保 健 福 祉 部 長
令和3年度救急救命士養成所専任教員講習会に係る受講者の募集について（通知）	3 健 第 9279 号 令和3年10月27日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について（通知）	3 健 第 9159 号 令和3年10月28日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について（通知）	3 健 第 9350 号 令和3年10月28日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス変異株流行国・地域に滞在歴がある入国者等の方々の健康フォローアップ及びSARS-CoV-2陽性と判定された方の情報及び検体送付の徹底について（通知）	3 健 第 9257 号 令和3年10月29日 保 健 福 祉 部 長
令和3年度医療施設等施設・設備整備補助事業の追加募集について（依頼）	3 健 第 9377 号 令和3年10月29日 地 域 医 療 課 長
救急病院に関する申出内容の変更について－福島県病院協会厚生農業協同組合連合会坂下厚生総合病院－（通知）	3 健 第 9416 号 令和3年11月1日 保 健 福 祉 部 長
軽症患者等を対象とした新型コロナウイルス感染症治療薬の治験推進について（通知）	3 健 第 9335 号 令和3年11月1日 保 健 福 祉 部 長

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第6.0版について（送付）	3 健 第 9573 号 令和 3 年 11 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第25回報告書」及び「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業2020年年報」の周知について（通知）	3 健 第 9646 号 令和 3 年 11 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
令和 3 年度福島県地域医療介護総合確保基金事業補助金交付要綱の改正及び交付申請について（通知）	3 健 第 9366 号 令和 3 年 11 月 12 日 保 健 福 祉 部 長
季節性インフルエンザワクチンの定期の予防接種における接種時期等について（通知）	3 健 第 100147 号 令和 3 年 11 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
予防接種法施行規則及び予防接種実施規則の一部を改正する省令の公布について（通知）	3 健 第 10104 号 令和 3 年 11 月 17 日 地 域 医 療 課 長
新霞が関ビル全館停電に伴う新型コロナワクチンの接種に関する副反応疑い報告における FAX 受付の一時停止について（通知）	3 健 第 10129 号 令和 3 年 11 月 18 日 地 域 医 療 課 長
福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について（通知）	3 健 第 10237 号 令和 3 年 11 月 19 日 保 健 福 祉 部 長
希少疾病用医薬品の指定取消し及び指定について（通知）	3 健 第 10239 号 令和 3 年 11 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬の医療機関への配分等について（質疑応答集の修正）	3 健 第 10289 号 令和 3 年 11 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
ニボルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（胃癌及び食道癌）の一部改正について（通知）	3 健 第 10351 号 令和 3 年 11 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
アプロシチニブ製剤の最適使用推進ガイドライン（既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎）について（通知）	3 健 第 10276 号 令和 3 年 11 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
ウパダシチニブ製剤の最適使用推進ガイドライン（既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎）の一部改正について（通知）	3 健 第 10277 号 令和 3 年 11 月 26 日 保 健 福 祉 部 長

新型コロナウイルス感染症流行下における薬局での医療用抗原定性検査キットの取扱いに関する留意事項について	3 健 第 10424 号 令和 3 年 11 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の今後の対応について（通知）	3 健 第 10363 号 令和 3 年 11 月 29 日 地 域 医 療 課 長
「予防接種法第 5 条第 1 項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について（通知）	3 健 第 10364 号 令和 3 年 11 月 29 日 地 域 医 療 課 長
予防接種を行う医師の氏名等の公告に係る事務について（通知）	3 健 第 10365 号 令和 3 年 11 月 29 日 地 域 医 療 課 長
新型コロナウイルス感染症医療従事者支援事業補助金の第 2 回申請について（通知）	3 健 第 10312 号 令和 3 年 11 月 30 日 保 健 福 祉 部 長
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準について（一部改正）（通知）	3 健 第 10314 号 令和 3 年 11 月 30 日 保 健 福 祉 部 長
B1.1.529 系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る入退院及び航空機内における濃厚接触者の取扱いについて（通知）	3 健 第 10539 号 令和 3 年 12 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
今冬のインフルエンザ総合対策の推進について（通知）	3 健 第 10498 号 令和 3 年 12 月 1 日 地 域 医 療 課 長
「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き別冊罹患後症状のマネジメント（暫定版）」の周知について	3 健 第 10569 号 令和 3 年 12 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症に係る発生届入力時のお願い	3 健 第 10520 号 令和 3 年 12 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査におけるゲノム解析及び変異株 PCR 検査について（依頼）	3 健 第 10614 号 令和 3 年 12 月 6 日 保 健 福 祉 部 長
在留外国人が参加するお祭り等における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について（第 8 報）（通知）	3 健 第 10722 号 令和 3 年 12 月 7 日 保 健 福 祉 部 長

年末年始における医療提供体制の確保について（通知）	3 健 第 10630 号 令和 3 年 12 月 8 日 保 健 福 祉 部 長
予防接種法施行規則の一部を改正する省令の公布について（通知）	3 健 第 10791 号 令和 3 年 12 月 9 日 地 域 医 療 課 長
予防接種法施行規則の一部を改正する省令の公布について（通知）	3 健 第 10792 号 令和 3 年 12 月 9 日 地 域 医 療 課 長
「定期の予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」の一部改正について（通知）	3 健 第 10789 号 令和 3 年 12 月 9 日 地 域 医 療 課 長
医薬関係者からの医薬品の副作用及び感染症報告について（通知）	3 健 第 10832 号 令和 3 年 12 月 9 日 保 健 福 祉 部 長
令和 3 年度看護師救急医療業務実地修練に係る受講者の募集について（通知）	3 健 第 10812 号 令和 3 年 12 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬の医療機関への配分について（質疑応答集の修正）	3 健 第 10798 号 令和 3 年 12 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
年末年始における患者受入れ体制の確保について（通知）	3 健 第 10823 号 令和 3 年 12 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの供給について（通知）	3 健 第 10883 号 令和 3 年 12 月 10 日 地 域 医 療 課 長
B.1.1.529 系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る入退院及び航空機における濃厚接触者並びに公表等の取扱いについて（通知）	3 健 第 10876 号 令和 3 年 12 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査におけるゲノム解析及び変異株 PCR 検査について（通知）	3 健 第 10878 号 令和 3 年 12 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
医療用医薬品の供給不足に係る対応について（通知）	3 健 第 10922 号 令和 3 年 12 月 14 日 保 健 福 祉 部 長

福島県ワクチン・検査パッケージ活用等体制整備事業実施事業者の募集について（通知）	3 健 第 10956 号 令和 3 年 12 月 14 日 保 健 福 祉 部 長
B.1.1.529 系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る入退院及び航空機内における濃厚接触者並びに公表等の取扱いについて（通知）	3 健 第 10955 号 令和 3 年 12 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
救急病院の認定について－福島西部病院－（通知）	3 健 第 9919 号 令和 3 年 12 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
予防接種実施規則の一部を改正する省令の公布について（通知）	3 健 第 11154 号 令和 3 年 12 月 17 日 地 域 医 療 課 長
令和 3 年度病院前医療体制における指導医研修（上級者）に係る受講者の募集について（通知）	3 健 第 11040 号 令和 3 年 12 月 20 日 保 健 福 祉 部 長
令和 3 年度医師救急医療業務実地修練に係る受講者の募集について（通知）	3 健 第 11043 号 令和 3 年 12 月 20 日 保 健 福 祉 部 長
B.1.1.529 系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る入退院及び航空機内における濃厚接触者並びに公表等の取扱いについて（通知）	3 健 第 11104 号 令和 3 年 12 月 20 日 保 健 福 祉 部 長
福島県年末年始医療体制強化事業の実施について（通知）	3 健 第 11341 号 令和 3 年 12 月 23 日 保 健 福 祉 部 長
年末年始の国有ワクチン緊急連絡先について（通知）	3 健 第 11364 号 令和 3 年 12 月 27 日 薬 務 課 長
令和 3 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 4 四半期）について（通知）	3 生 福 第 4618 号 令和 3 年 12 月 27 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症に係る HER-SYS による発生届の入力及び提出のお願いについて	3 健 第 11340 号 令和 3 年 12 月 27 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症の研究用抗原定性検査キットの販売に関する監視指導及び留意事項について（通知）	3 健 第 11400 号 令和 3 年 12 月 27 日 保 健 福 祉 部 長

中和抗体薬の承認条件の変更について（通知）	3 健 第 11552 号 令和 3 年 12 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬の医療機関への配分について（質疑応答集の修正）	3 健 第 11555 号 令和 3 年 12 月 30 日 保 健 福 祉 部 長
ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種を進めるに当たっ ての相談支援体制・医療体制等の維持、確保について（通知）	3 健 第 11633 号 令和 4 年 1 月 4 日 地 域 医 療 課 長
厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会におけるキャッチアッ プ接種に関する議論について（通知）	3 健 第 11634 号 令和 4 年 1 月 4 日 地 域 医 療 課 長
福島県新型コロナウイルス感染症患者受入体制強化事業の実施に ついて（通知）	3 健 第 11576 号 令和 4 年 1 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第6.1版 について（送付）	3 健 第 11623 号 令和 4 年 1 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬の医療機関への配 分について	3 健 第 11624 号 令和 4 年 1 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症の感染症予防計画策定会議急拡大が確 認された場合の対応について	3 健 第 11753 号 令和 4 年 1 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
抗インフルエンザウイルス薬等の安定供給について（依頼）	3 健 第 11789 号 令和 4 年 1 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
B.1.1.529系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る 入退院及び濃厚接触者並びに公表等の取扱いについて	3 健 第 11822 号 令和 4 年 1 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
日本医師会・日本獣医師会・厚生労働省による連携シンポジウム 「ここまで分かった、人と動物における新型コロナウイルス感染 症－コロナ禍におけるペットとの付き合い方－」の開催について （通知）	3 健 第 11969 号 令和 4 年 1 月 11 日 保 健 福 祉 部 長

ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種を進めるに当たっ ての体制について（通知）	3 健 第 11827 号 令和 4 年 1 月 12 日 地 域 医 療 課 長
自宅療養又は宿泊療養中等の医師によるオンライン診療等につい て（通知）	3 健 第 12055 号 令和 4 年 1 月 12 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の更なる徹底と業務 継続計画（BCP）等による対応について（通知）	3 健 第 11973 号 令和 4 年 1 月 12 日 保 健 福 祉 部 長
B.1.1.529 系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る 入退院及び濃厚接触者並びに公表等の取扱いについて	3 健 第 12234 号 令和 4 年 1 月 14 日 保 健 福 祉 部 長
ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種を進めるに当たっ ての体制について（通知）	3 健 第 12266 号 令和 4 年 1 月 14 日 地 域 医 療 課 長
B.1.1.529 系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る 入退院及び濃厚接触者並びに公表等の取扱いについて	3 健 第 12351 号 令和 4 年 1 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査におけるゲノム解析 及び変異株 PCR 検査について（通知）	3 健 第 12353 号 令和 4 年 1 月 18 日 保 健 福 祉 部 長
令和 3 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪 番計画表（第 4 四半期）の一部変更について（通知）	3 生 福 第 5094 号 令和 4 年 1 月 18 日 保 健 福 祉 部 長
オミクロン株の感染流行状況下における医療従事者である濃厚接 触者に対する外出自粛要請への対応について（通知）	3 健 第 12501 号 令和 4 年 1 月 19 日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について（通知）	3 健 第 12579 号 令和 4 年 1 月 19 日 保 健 福 祉 部 長
B.1.1.529 系（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る入 退院及び濃厚接触者並びに公表等の取扱いについて	3 健 第 12709 号 令和 4 年 1 月 20 日 保 健 福 祉 部 長
HER-SYS の不具合に伴う当面の対応について	3 健 第 12742 号 令和 4 年 1 月 21 日 保 健 福 祉 部 長

福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について（通知）	3 健 第 12971 号 令和 4 年 1 月 25 日 保 健 福 祉 部 長
ゼビュデイ点滴静注液500mgの有効期限の取扱いについて（通知）	3 健 第 12930 号 令和 4 年 1 月 27 日 保 健 福 祉 部 長
経口抗ウイルス薬の医療機関及び薬局への配分に係る質疑応答集の追加・修正について（通知）	3 健 第 13019 号 令和 4 年 1 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
夜間救急電話相談事業の実施について（通知）	3 健 第 13043 号 令和 4 年 1 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
感染急増時における濃厚接触者等の対応について（通知）	3 健 第 13052 号 令和 4 年 1 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について（通知）	3 健 第 13191 号 令和 4 年 1 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
「医療用医薬品の供給不足に係る対応について」の別紙 1 に関わる医薬品の適切な流通について（通知）	3 健 第 13118 号 令和 4 年 1 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
感染急増時における濃厚接触者等の対応に係る待機期間の短縮について（通知）	3 健 第 13199 号 令和 4 年 1 月 29 日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応等に対応する専門的な医療機関等の新規指定について（通知）	3 健 第 11450 号 令和 4 年 2 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症医療従事者支援事業補助金の第 3 回申請について（通知）	3 健 第 12974 号 令和 4 年 2 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症オミクロン株の発生等に伴う抗原定性検査キットの発注等について（通知）	3 健 第 13202 号 令和 4 年 2 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症オミクロン株の発生等に伴う抗原定性検査キットの発注等における留意事項について（通知）	3 健 第 13283 号 令和 4 年 2 月 2 日 保 健 福 祉 部 長

新型コロナウイルス感染症に係る就業制限の解除に関する取扱いについて（通知）	3 健 第 13300 号 令和 4 年 2 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第6.2版について（通知）	3 健 第 13201 号 令和 4 年 2 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬の医療機関への配分について（質疑応答集の追加等）	3 健 第 13235 号 令和 4 年 2 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症の感染拡大が確認された場合の対応について（通知）	3 健 第 13408 号 令和 4 年 2 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
B.1.1.529系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る入退院及び濃厚接触者並びに公表等の取扱いについて（通知）	3 健 第 13414 号 令和 4 年 2 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
医療機関における救急患者受入継続のための対応について（依頼）	3 健 第 13417 号 令和 4 年 2 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外使用について（通知）	3 健 第 13258 号 令和 4 年 2 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症に関する臨床症状での診断について（通知）	3 健 第 13479 号 令和 4 年 2 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
福島県がん診療連携推進病院の整備に関する指針の一部改正について（通知）	3 健 第 13485 号 令和 4 年 2 月 8 日 保 健 福 祉 部 長
新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外使用について（通知）	3 健 第 13615 号 令和 4 年 2 月 8 日 保 健 福 祉 部 長
「新型コロナウイルス感染症オミクロン株の発生等に伴う抗原定性検査キットの発注等における留意事項について（令和 4 年 1 月 31日付事務連絡）」に関する Q & A について（通知）	3 健 第 13661 号 令和 4 年 2 月 9 日 保 健 福 祉 部 長
医療法人の事業報告書等の届出事務の電子化に係る調査について（通知）	3 健 第 13726 号 令和 4 年 2 月 10 日 保 健 福 祉 部 長

特例承認に係る医薬品に関する特例について（通知）	3 健 第 13901 号 令和 4 年 2 月 14 日 保 健 福 祉 部 長
医療機関における新型コロナウイルス感染症の発生届に係る留意事項について（通知）	3 健 第 13852 号 令和 4 年 2 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
「オンライン診療の適切な実施に関する指針」の改訂について（送付）	3 健 第 13889 号 令和 4 年 2 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
「『オンライン診療の適切な実施に関する指針』に関する Q & A」の改訂について（送付）	3 健 第 13890 号 令和 4 年 2 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症対策に係る人材と医療提供状況に関する G-MIS 調査項目の一部変更について（通知）	3 健 第 13946 号 令和 4 年 2 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
「福島県がん診療連携推進病院整備事業補助金交付要綱」及び「福島県がん診療連携推進病院整備事業実施要綱」の一部改正について（通知）	3 健 第 13912 号 令和 4 年 2 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
福島県小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業の実施について（通知）	3 健 第 13914 号 令和 4 年 2 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査におけるゲノム解析及び変異株 PCR 検査について（通知）	3 健 第 14030 号 令和 4 年 2 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
オミクロン株の感染流行を踏まえた透析患者の適切な医療提供体制の確保について（通知）	3 健 第 14058 号 令和 4 年 2 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症におけるゼビュディの医療機関への配分について（通知）	3 健 第 14066 号 令和 4 年 2 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症に対応するための「巡回診療の医療上の取扱いについて」等の読替えについて（通知）	3 健 第 13961 号 令和 4 年 2 月 18 日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について（通知）	3 健 第 14191 号 令和 4 年 2 月 18 日 保 健 福 祉 部 長

抗原定性検査キットが不足した医療機関からの緊急的な購入希望に個別に対応する仕組みの整備について（通知）	3 健 第 14229 号 令和 4 年 2 月 18 日 保 健 福 祉 部 長
ゲル充填人工乳房及び皮膚拡張器植込み患者等における乳房インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫（BIA-ALCL）の発生及び植込み患者等に対する情報提供について（通知）	3 健 第 14409 号 令和 4 年 2 月 21 日 保 健 福 祉 部 長
「医療法人の付帯業務について」の一部改正について（通知）	3 健 第 14506 号 令和 4 年 2 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
令和 3 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 4 四半期）の一部変更について（通知）	3 生 福 第 5937 号 令和 4 年 2 月 25 日 保 健 福 祉 部 長
ペムプロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン使用推進ガイドライン（高い腫瘍遺伝子変異量（TMB-High）を有する固形癌）の作成及び最適使用料推進ガイドライン（腎細胞癌）の一部改正について（通知）	3 健 第 14694 号 令和 4 年 2 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
救急病院に関する申出内容の変更について－福島県厚生農業協同組合連合会鹿島厚生病院－（通知）	3 健 第 14691 号 令和 4 年 3 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適用外使用について（通知）	3 健 第 14776 号 令和 4 年 3 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
外国人への適切な医療の提供について（通知）	3 健 第 14872 号 令和 4 年 3 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンスの一部改正について（通知）	3 健 第 14873 号 令和 4 年 3 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
消費税の適格請求書等の保存方式施行に向けた周知について（通知）	3 健 第 14875 号 令和 4 年 3 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診察に係る研修会の開催について（通知）	3 健 第 14924 号 令和 4 年 3 月 2 日 地 域 医 療 課 長

新型コロナワクチン小児接種に関する県の相談窓口設置について (通知)	3 健 第 15026 号 令和 4 年 3 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について (通知)	3 健 第 14933 号 令和 4 年 3 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
令和 3 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪 番計画表 (第 4 四半期) の一部変更について (通知)	3 生 福 第 6072 号 令和 4 年 3 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス治療薬「パキロビットパック」の対象機関追 加及び登録手続きについて (依頼)	3 健 第 14929 号 令和 4 年 3 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
「医療用医薬品の供給不足に係る対応について」の別添 1 に係る 医薬品の供給状況の調査結果について (通知)	3 健 第 15170 号 令和 4 年 3 月 8 日 保 健 福 祉 部 長
救急病院の認定について - 医療法人辰星会 柊記念病院 - (通知)	3 健 第 14481 号 令和 4 年 3 月 9 日 保 健 福 祉 部 長
医療機関における新型コロナウイルス感染症の HER-SYS による 届出の再度のお願い (依頼)	3 健 第 15064 号 令和 4 年 3 月 11 日 保 健 福 祉 部 長
マルウェア「Emontet」の感染拡大について (通知)	3 健 第 15465 号 令和 4 年 3 月 11 日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について (通知)	3 健 第 15501 号 令和 4 年 3 月 11 日 保 健 福 祉 部 長
令和 4 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪 番計画表 (第 1 四半期) について (通知)	3 生 福 第 6266 号 令和 4 年 3 月 14 日 保 健 福 祉 部 長
エキスパートパネルの実施要件について (通知)	3 健 第 15075 号 令和 4 年 3 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
HPV ワクチン接種後に生じた症状の診療に係る研修会の開催に ついて (依頼)	3 健 第 15243 号 令和 4 年 3 月 16 日 保 健 福 祉 部 長

福島県新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養・自宅療養の公費負担の範囲について（通知）	3 健 第 15656 号 令和 4 年 3 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
抗原定性検査キットの供給に係る優先付け措置等の終了について（通知）	3 健 第 15845 号 令和 4 年 3 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型コロナウイルス感染患者受入体制強化事業の実施について（通知）	3 健 第 15764 号 令和 4 年 3 月 22 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症流行下における薬局での医療用抗原定性検査キットの取扱いについて（通知）	3 健 第 15907 号 令和 4 年 3 月 22 日 保 健 福 祉 部 長
医薬関係者からの医薬品、医療機器、再生医療等製品、医薬部外品及び化粧品の副作用、感染症及び不具合報告の実施要領について（通知）	3 健 第 16096 号 令和 4 年 3 月 23 日 保 健 福 祉 部 長
令和 3 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 4 四半期）の一部変更について（通知）	3 生 福 第 6588 号 令和 4 年 3 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
離島等の診療所における医師及び薬剤師不在時の医薬品提供の考えについて（通知）	3 健 第 16230 号 令和 4 年 3 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準等について（一部改正）	3 健 第 15922 号 令和 4 年 3 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
令和 4 年 3 月 16 日に発生した地震により被災した医療施設等に係る災害復旧費補助金の活用意向の報告について（通知）	3 健 第 16026 号 令和 4 年 3 月 25 日 保 健 福 祉 部 長
新興感染症等に対する体制整備について（通知）	3 健 第 16035 号 令和 4 年 3 月 29 日 保 健 福 祉 部 長
令和 4 年度特別手当支援事業の取扱いについて（通知）	3 健 第 16390 号 令和 4 年 3 月 30 日 保 健 福 祉 部 長
HPV ワクチン接種後に生じた症状の診療に係る研修会の動画配信について（依頼）	3 健 第 16575 号 令和 4 年 3 月 30 日 保 健 福 祉 部 長

福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策について（通知）

3 健 第 16625 号
令和 4 年 3 月 30 日
保 健 福 祉 部 長

院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）に係る参加医療機関
の追加募集について（通知）

3 健 第 16723 号
令和 4 年 3 月 31 日
保 健 福 祉 部 長

作品募集のお願い

～『受け身の姿勢からは停滞しか生まれません』～

広報委員会

一般社団法人福島県病院協会会報の発行につきましては、会員より有形無形にご支援とご協力を賜りまして感謝申し上げます。

おかげさまを持ちまして、1973年に『医療体制の確立に邁進するため、会員（当時は78会員）の意見や随筆等を掲載して相互の緊密を図る』目的で創刊号が刊行されて以来、先哲の伝統を継承し「No.115」を数えることとなりました。

広報委員会では、更なる新たな歴史の創造を期し、より多くの皆様に興味・関心を頂戴できる親しまれる会報づくりを目指しております。そのためには皆様方からの積極的なご投稿が欠かせません。広報委員会では、下記の枠にあるような企画で編集を行っております。

つきましては、各病院の先生方、事務長さん、看護師長さんをはじめとした関係各位の玉稿及び作品の応募が不可欠です。また、会報編集上の新しい企画へのアイデアも募集しております。ふるってご応募、またはご意見を賜りますようお願いいたします。

表紙：病院所蔵の絵画（絵画解説の文言）
評論：医療政策、医療保険、介護保険、救急医療、病診連携、初期研修、機能評価、広告規制、診療情報開示などの医療に関するご意見や提言。
学術：原著、症例報告、研究紹介、学会印象記、講演記録など。
随想：心に思い浮かぶことを書き綴った作品。
旅行記：国内・外旅行、個人・団体旅行の記録や感想。
文芸：俳句、短歌、川柳、詩、小説、童話など。
芸術：絵画、書道、写真、イラスト、図表など。

現在、会報は年2回発行する編集計画です。多くの皆様からの原稿は事務局におきまして、常時受付けております。

投稿に際しましては、原稿用紙、パソコンでの原稿のいずれでも結構です。

『受け身の姿勢からは停滞しか生まれません』、作品を自分自身のみで温めて置かず、是非とも積極的にご投稿いただきたく、編集子一同心待ちにしております。

なお、お問い合わせ及び原稿送付先は「一般社団法人福島県病院協会事務局」です。

編集後記

巻頭言では、終わりのなかなか見えないコロナ禍との戦いや新幹線まで脱線した震度6強の東日本大震災の余震などの「有事」が続く中、奮闘する外科医の報告です。多くの方々が自分の診療だけでは終わらない働き方改革とは逆行する同じような境遇にあるのではないかと思います。そんな中でも経験を積み少しずつ慣れ「有事」により鍛えられたたくましい自分を感じている方も多いのではないのでしょうか？ 続いては、福島県立医科大学医学部麻酔科学講座の井上聡己主任教授による講座紹介です。福島はご出身の奈良の3倍くらい広い医療圏ではあるが福島医大でのカバーを目指したいとの意気込みであり期待大です。3番目は「キビタン健康ネット」の更なる活用の勧めと今後についてで、コロナ禍や広い福島では特に有効であり、参加施設の増大により安全で効率的な医療の実現や、夜間や土日祝日での救急対応可能となるよう目指し、また「地域連携パスシステム」と「WEB会議システム」を活用してほしいと要望されています。4番目は、福島医大保健科学部開設1年の報告で、保健科学部での「福島県を知る」や「福島県の医療環境」の授業では学生の心をわしづかみにする内容であり、学生が奮起して社会貢献してくれるのではとこれまた期待大です。5番目は生体情報モニターのアラームに係る医療事故の報告であり、いずれもどこにでも起こりうる状況であり気が引き締まる思いでした。「有事」が続いていますが、頑張っている皆様の様子を知ることができて心が少し温かくなった今月号でした。

(文責：原口秀司)

2022年6月

発行人 福島市新町4-22

(福島県医師会館内)

一般社団法人 福島県病院協会 TEL (024)521-1752

会長 佐藤勝彦 FAX (024)521-2986

印刷所 福島市庄野字柿場1-11 TEL (024)593-5111

株式会社 阿部紙工